

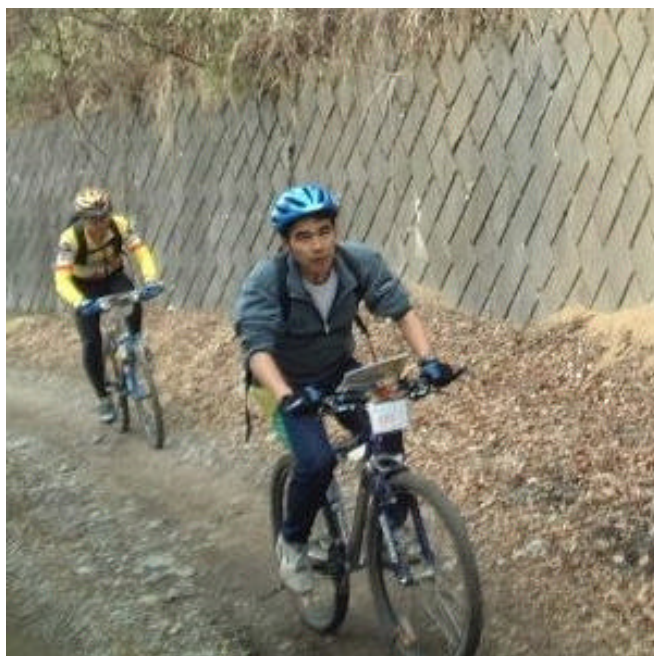
MTB オリエンテリング 挑戦記

「似て非なる競技」で改めて知るオリエンテーリングの緻密さ

Text：佐々木 順（サン・スーシ）

「距離30km, アップ1000m. コントロールは6個. 1:25,000の白黒地図, 通行可能度表示無し.」
普通のオリエンティアの感覚ではまず考えられないこのコースプロフィールは, 多くのオリエンティアが仙台に集結した3月25日, そこから遠く離れた群馬県・倉渕村で筆者が手にしていたものである.

こんなコースを自転車で回るのが, 自転車版オリエンテーリングとして雑誌にも紹介された「トレイル・トレース・バイキング(通称とれとれ)」. オリエンティアとしては経験豊富でも自転車乗りとしては駆け出しの筆者が, 地図とコンパスを手からハンドルに付け替えて, 見慣れた山道に未知の世界を探しに挑戦. そこにあったのは, 我々の知るオリエンテーリングとは全く異質の地図読み技術だった!



▲スタート直後, 林道の登りに挑む筆者



▲参加者約30名が一斉スタート

■「とれとれ」とは何か?

「とれとれ」とはフランスで生まれたMTBラリーレイドを日本流にアレンジしたツーリングゲームである. クリエイターと呼ばれる調査者が「走って楽しい道」を調べ, それをコースの形に仕上げて提供する. 参加者は地図とコンパス, それにフリーフィングという事前説明で与えられた情報を頼りに山に入り, 正しいルートを探してゴールに向かう. 上級者向けのシリーズ戦(2日間)と初中級者向けのミニがあり, 今回参加の

イベントはミニに相当する. 初中級者向けと言っても, 自転車の担ぎ登りや山道の下りなど, とれとれに不可欠な要素はすべて含まれ, 優勝者でもゴールまで約3時間を要するハードな内容になっている.

必要な道具のうち, とれとれ特有のものとしてマップホルダがある. 大半の人はボードに穴を開けて紐でハンドルに結んだものに, 地図入りのクリアケースを貼り付けている. 今回筆者は, 武石雄市氏の協力を得て, 北欧製のMTB-O専用マップホルダを入手した. 自由に地図を回せることもあり, 常連の参加者にも珍しがられた逸品である.

■スタートは集団で

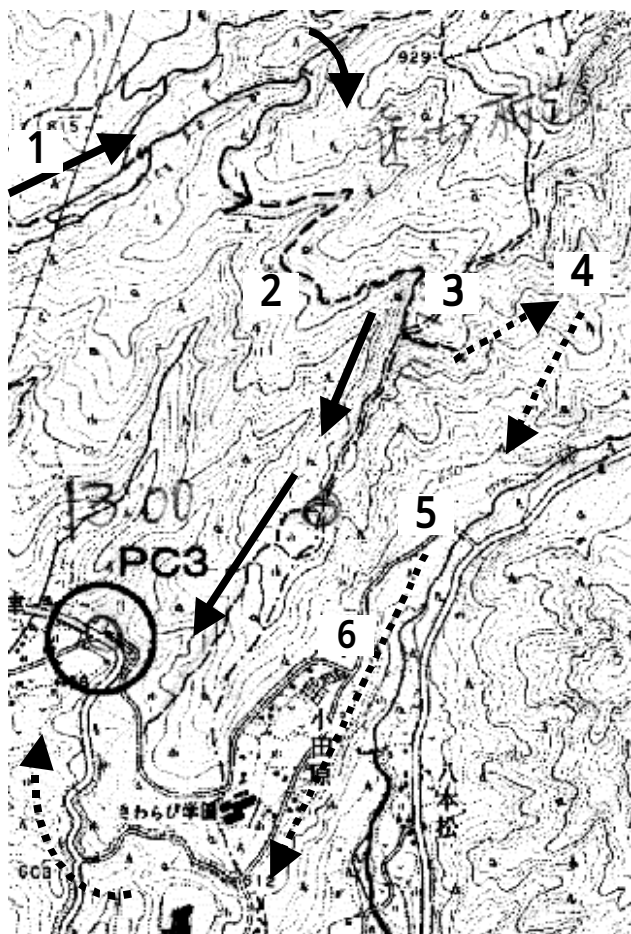
倉渕村は, 89年に東大OLKが大会を開催して以来, 同クラブとそのOB有志が継続的な地元普及活動を行った縁で, オリエンテーリングの認知度は高い土地柄である.

当日の朝, 村役場前に集合した参加者に地図が渡され, フリーフィングが始まる. 地図は国土地理院の1:25000の白黒コピーであり, もらった状態では正規ルートとコントロール以外の情報は何も記されていない. ルートを蛍光ペンでなぞり, 無人コントロール用のクイズ問題などを赤ペンで地図に書き込む.

スタート地点まで参加者全員で走ったあと, 一斉スタート. リレー競技のスタートにも似た雰囲気の中, 林道を集団で駆け上がる.



▲途中にはこんな担ぎ区間も



▲とれとれコースの一部

■ロスト、そして玉砕の図

とれとれコースの一部をここで紹介する。実線矢印が正規ルート、点線矢印が筆者のルートである。

2個の有人コントロールと1個の無人コントロールののち、図中1の方向で林道を登る。ヘアピンのように転回してコンタ沿いの林道へ。この道は造成中で、途中に道の無い部分(2)があったが、図中には構わず点線が描かれている。正規ルートでは3の尾根線上の道に乗り換えて下るのだが、十字路に見える分岐は、実際は地図に描かれたように明確にはなっていない。縮尺がO-Mapと異なることもあり、風景と地図と自分の感覚が噛み合わない。このあたりから現在位置を見失い始める。

道が下り始めたため、怪しいと思って立ち止まって正置を行うが、現在位置を確認する手段はすでに無くなっている(4)。再び登り返すのは辛いために、その場で見える分岐から方角だけを頼りに斜面

を下りる。途中から藪になり「くそー可能性があれば！」とブツブツ言いながら舗装道路に出たのは5の地点。これ幸いとばかりに次なるポイントである図中PC3(有人)を目指す。下りでスピードが出過ぎたために分岐6を見落とし、迂回ルートを登り返してようやく到着。とれとれでは正規方向外から有人コントロールにアタックすることはペナルティ時間加算の対象になる。その上、今のロストと復帰に時間がかかりすぎたため、次の有人コントロールで時間切れ、レース終了となった。

オリエンテーリングでは体験しえないスピード変化に対する距離感の調整は、「経験しかない」とのこと。

最大の問題は、地図読みに関する意識の差と感じる。「地図上でルートをを見つけ出して現地と照合させながら走る」オリエンテーリングは地図の正確さが競技の大前提であり、常に緻密な地図読みが要求されるが、「予め決められたルートを現地で見つけ出して追跡する」とれとれでは地図の正確さはさほど重視されず、地図から現地の大局的なイメージを作れることを地図読みとしている。

これらの違いは理解していたものの、知っているのとやって実感するのでは大違いだし、何といっても自転車の機材や技術の問題ではなく、地図読みの問題で完走できなかったのがオリエンティアとして一番納得がいけない。来シーズンはリベンジと行きましようか

* * *

とれとれ自体に関する情報は：
「とれとれはいく実行委員会」
www.bike-joy.com/toretore.htm

NORDENMARK 社製・MTB 用マップ
ホルダに関する情報は：
武石 雄市 TEL: 0237-43-5137
fwiz5800@mb.infoweb.ne.jp

■次こそリベンジ！

過去に数人のオリエンティアがこのイベントを体験しているが、その誰もが口にするのが「スピードの急変化による距離感の狂い」と「ラフな地図に対する戸惑い」である。

登りと下り、舗装路に林道にシングルトラック(いわゆる小径)。



▲表彰式終了後、参加者・運営者揃って記念撮影